

コリント人への後の書

第一章

一 神の御心によりてイエス・キリストの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ、書をコリントに在る神の教會ならびにアカヤ全國に在る凡ての聖徒に贈る。二 願くは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。

三 讃むべき哉、われらの主イエス・キリストの父なる神、即ちもろもろの慈悲の父、一切の慰安の神、四 わ

れらを凡ての患難のうち慰め、我等をして自ら神に慰めらるる慰安をもて、諸般の患難に居る者を慰むること

を得しめ給ふ。五 そはキリストの苦難われらに溢るる如く、我らの慰安も亦キリストによりて溢るればなり。

六 我ら或は患難を受くるも汝らの慰安と救とのため、或は慰安を受くるも汝らの慰安の爲にして、その慰安は汝

らの中に働きて我らが受くる如き苦難を忍ぶことを得しむるなり。七 斯て汝らが苦難に與るごとく、また慰安に

も與ることを知れば、汝らに對する我らの望は堅し。八 兄弟よ、我らがアジヤにて遭ひし患難を汝らの知らざる

を好まず、即ち壓せらるること甚だしく力耐へがたくして生くる望を失ひ、九 心のうちに死を期するに至れり。

一〇 これ己を頼まずして、死人を甦へらせ給ふ神を頼まん爲なり。一〇 神は斯る死より我らを救ひ給へり、また救ひ給

はん。我らは後もなほ救ひ給はんことを望みて神を頼み、二 汝らも我らの爲に祈をもて助く。これ多くの人の

願望によりて賜る恩恵を多くの人の感謝するに至らん爲なり。

イ 哥前二・一を見よ	哥後一・二三	テ 羅一五・五	哥後七	五 弗三・一、二三	テ 羅一五・三〇 腓一
ロ 加三・二六を見よ	へ 哥前一〇・三三を見	四	夕 羅八・一七を見よ	一 九 門二三	
ハ 弗一・一 西一・一	ト 徒一八・一二を見よ	ワ 哥後七・六、七、一三	默 一・九	ム 哥後四・一五 九	
提 前二・一 提 後一	チ 徒九・二三を見よ	(羅 五・一二、六	レ 徒一六・六を見よ		
一・一 多一・一 (羅	腓 九・二三を見よ	六・二三)	ソ 徒一九・二三 哥前		
一・二 加一・一	腓 一・一	カ (哥後四・二〇 腓 三	一 五・三二)		
二 哥後一・一九 徒 一	リ 羅一・七を見よ	・一〇 西一・二四)	ツ 羅一・二三を見よ		
六・二を見よ	又 弗一・三 彼前一・三	ヨ 提 後二・一〇 (哥後	ネ 羅一五・三一を見よ		
ホ 徒一八・一を見よ	ル 羅一五・六を見よ	四・一五、一二・一	ナ 提 前四・一〇		

二 われら世に在りて殊に汝らに對し、神の清淨と眞實とをもて、また肉の智慧によらず、神の恩惠によりて
 三 行ひし事は我らの良心の證する所に於て、我らの誇なり。三 我らの書き贈ることは、汝らの讀むところ知る所の
 四 他ならず。四 而して我は汝等のうち或者の既に知れる如く、我らの主イエスの日に我らが汝らの誇、なんぢらが
 我らの誇たるを終まで知らんことを望む。

一五 この確信をもて先づ汝らに到り、再び益を得させ、一六 斯て汝らを経てマケドニヤに往き、マケドニヤより
 一七 更に復なんぢらに到り、而して汝らに送られてユダヤに往かんことを定めたり。一七 斯く定めたるは浮きたる事な
 一八 らんや。わが定むるところ肉によりて定め、然り然り、否々と言ふが如きこと有らんや。一八 神は眞實にて在せば、
 一九 我らが汝らに對する言も、然りまた否と言ふが如きにあらず。一九 我ら即ちパウロ、シルワノ、テモテが汝らの中
 に傳へたる神の子キリスト・イエスは、然りまた否と言ふが如き者にあらず、然りと言ふことは彼によりて成り

二〇 たるなり。二〇 神の約束は多くありとも、然りと言ふことは彼によりて成りたれば、彼によりてアアメンあり、
 二一 我ら神に榮光を歸するに至る。二二 汝らと共に我らをキリストに堅くし、且われらに膏を注ぎ給ひし者は神なり。

二三 神はまた我らに印し、保證として御靈を我らの心に賜へり。
 二四 我わが靈魂を賭けて神の證を求む、我がコリントに往くことの遅きは、汝らを寛うせん爲なり。二四 されど
 我らは汝らの信仰を掌どる者にあらず、汝らの喜悅を助くる者なり、汝らは信仰によりて立てばなり。

イ 哥後二・一七を見よ
 口 哥前二・一七を見よ
 (雅三・一五)
 ハ 徒二三・一を見よ
 來一三・一八
 二 撒前二・一〇
 ホ 哥前一・八を見よ
 へ 哥後五・一二
 ト 哥前一・八を見よ
 チ (哥前四・一九)
 リ 羅一・一一、一五、
 二九
 又 (徒一九・二二 哥前
 一六・五一七)
 ル 羅一五・二六を見よ
 テ 徒一五・三を見よ
 (哥前二・一七)
 レ 撒前一・一 撒後一
 二 彼前五・二二
 (來二三・八)
 ヲ 六三 及び太四・三
 を見よ
 ヌ 哥前二・二〇
 ナ 羅一五・八
 ノ 約三・二三を見よ
 オ 哥後五・五 弗一、
 一四 (羅八・二六)
 ヲ 五、一一・二〇
 ク 哥後五・五
 ヤ 羅一・一〇を見よ
 (加一・二〇)
 コ 羅一・二〇
 (哥前二五・二)

エ(哥前四・二一) 哥後 半哥後二・三を見よ
 一八、九・一三、一 四、八・六、一六、二 一 羅六・一七、七・二 結二〇・四一 弗五
 二(二・二二) ユ二(哥前五・二、三) 〇・二四、一一・四、 三、一二・二八 加 五 哥前一五・五七 二 腓四・一八
 テ(哥後七・八) ヲ(哥前五・四、五) 七 撒前三・二 二・一、三 提後四・ 哥後八・二六、九 (歌一・三)
 ア(哥後二・四、九、七、 八、一二) 七(哥後七・一一) 七(羅一・一) 一〇 多一・四 一五(羅一・八) 一
 サ(加五・一〇) 撒後三 八(加六・一 弗四・三 七(路二・三二) 哥後 一徒一六・八を見よ 二 哥後七・五 一 哥前一二・八を見よ
 四 門二一 シ(哥後二・三を見よ) ス(哥後四・三、四、八、 八(哥後七・六、一三、一 へ(羅一五・二六を見よ) ヌ(哥後二・一五、一六

第二章

一 われ再び憂をもて汝らに到らじと自ら定めたり。ニ 我もし汝らを憂ひしめば、我が憂ひしむる者のほかに誰か我を喜ばせんや。三 われ前に此の事を書き贈りしは、我が到らんととき我を喜ばすべきもの、反つて我を憂ひしむる事のなからん爲にして、汝らは皆わが喜悅を喜悅とするを信するに因りてなり。四 われ大なる患難と心の悲哀とにより、多くの涙をもて汝らに書き贈り。これ汝らを憂ひしめんとにあらず、我が汝らに對する愛の溢るるばかりなるを知らしめん爲なり。

五 もし憂ひしむる人あらば我を憂ひしむるにあらず、幾許か汝ら衆を憂ひしむるなり。(幾許かと云へるは、われ激しく責むるを好まぬ故なり) 六 斯る人の多數の者より受けたる懲罰は足れり。七 されば汝ら寧ろ彼を恕し、かつ慰めよ、恐らくは其の人、甚だしき愁に沈まん。ハ この故に我なんぢらの愛を彼に顯さんことを勸む。

九 前に書き贈りしは、凡ての事につきて汝らが從順なりや否やをも試み知らん爲なり。一〇 なんぢら何事にても人を恕さば我も亦これを恕さん、われ恕したる事あらば、汝らの爲にキリストの前に恕したるなり。二 これサタンに欺かれざらん爲なり、我等はその詭謀を知らざるにあらず。

三 我キリストの福音の爲にトロアスに到り、主われに門を開き給ひたれど、三 我が兄弟テトスに逢はぬによりて心に平安をえず、彼處の者に別を告げてマケドニヤに往けり。四 感謝すべきかな、神は何時にてもキリストにより、我らを執へて凱旋し何處にても我等によりて、キリストを知る知識の馨をあらはし給ふ。五 救はるる者

コリント後書 二・一——一五

一六 にも亡ぶる者にも、我らは神に對してキリストの香ばしき馨なり。一六 この人には死よりいづる馨となりて死に至らしめ、かの人には生命より出づる馨となりて生命に至らしむ。誰か此の任に耐へんや。一七 我らは多くの人のごとく神の言を曲げず、眞實により神による者のごとく、神の前にキリストに在りて語るなり。

第三章

一 我等ふたたび己を薦め始めんや、また或人のごとく人の推薦の書を汝らに齎し、また汝等より受くることを要せんや。二 汝らは即ち我らの書にして我らの心に録され、又すべての人に知られ、かつ讀まるるなり。三 汝らは明かに我らの職によりて書かれたるキリストの書なり。而も墨にあらで活ける神の御靈にて録され、石碑にあらで心の肉碑に録されたるなり。

四 我らはキリストにより、神に對して斯る確信あり。五 されど己は何事をも自ら定むるに足らざるは神によるなり。六 神は我らを新約の役者となるに足らしめ給へり、儀文の役者にあらず、靈の役者なり。七 そは儀文は殺し、靈は活せばなり。八 石に彫り書されたる死の法の職にも光榮ありて、イスラエルの子等はその傾て消ゆべきモーセの顔の光榮を見つめ得ざりし程ならんには、九 況て靈の職は光榮なからんや。九 罪を定むる職もし光榮あらんには、況て義とする職は光榮に溢れざらんや。一〇 もと光榮ありし者も更に勝れる光榮に比ぶれば、光榮なき者となれり。一一 もし消ゆべき者に光榮ありしならんには、況て永存ふるものに光榮なからんや。

一二 我らは斯のごとき希望を有つゆゑに更に臆せずして言ひ、一三 又モーセの如くせざるなり。彼は消ゆべき者

イ 哥前二・一八を見よ へ 哥後四・二 (加一) ・二二、一八 (哥後) カ 哥後三・七 出二四 夕 弗三・二二
ロ 哥後二・一四を見よ 六 (一・九) ・二二、三一、三二、三八、レ 哥前一・五、一〇を見 ム 哥後三・九 羅七・
ハ (路二・三四) 約九・ ト 哥前五・八 哥後一 又 徒一八・二七 羅一 三三、一五、一六 五、六 加三・一〇、
三九 彼前二・七、 ・二二 (撒前二・四) 六・一 哥前一六・三 ヨ 撒三・三、七、三 耶 二二、(二二) (羅四・
八) 彼前四・二二) ル (哥前九・二) 一七、一三、三一、三 一五、五、二〇) ノ (羅一・一七、三、二
ニ 哥後二・一四を見よ チ 哥後一・二一九 ヲ (哥後三・六) 三 來八・一〇 一、(二二)
ホ 哥後三・五、六 リ 哥後五・二二、一〇 ワ 太一六・一六を見よ (結一・一九) ナ 約六・六三 羅七・六 四・二九 一三五
ウ 哥後三・一三 出三 オ 哥後七・四 弗六・
ク 哥後七・四 弗六・

ヤ 哥後三・七
 マ 羅一・七を見よ
 (哥後四・四)
 ア 哥後四・四 (哥後四
 ヌ 徒一三・一五
 フ 羅一・二三
 コ 哥後三・一八 加四
 .六 (羅六・二) 聖三・二
 エ 約八・三二を見よ
 キ 哥後三・一七
 ヲ 哥前二・二九を見よ
 ム 哥前七・二五を見よ
 ミ (哥前三・五)
 シ 哥後四・一六 路一
 .八・一を見よ
 エ 羅六・二二 (哥前四
 .五)
 ヒ 哥後二・一七を見よ
 モ 哥後五・一一、一二
 セ 哥後二・二二を見よ
 ス 哥後三・一四 (哥前
 .二、六、七等)
 イ 太一三・二二を見よ
 ロ 約一三・三二を見よ
 ハ (哥後三・一四) 約壹
 .二・一一)
 ニ 哥二・六 西一・一五
 来一・三 (約一・一)
 ホ 哥後三・一八 (哥後
 .四、六)
 ヘ 哥後四・六 (徒二六
 .一八)
 ト 撒前二・六、七 (哥
 前四・二五、一六) 哀四・二)
 チ 創一・三 哥後四・四
 (徒二六・一八) (詩二九・二)
 リ (來六・四) 彼後一・
 .一九)
 ニ 提後二・ワ (哥後六・二二)
 .二〇 (伯四・一九、カ加四・二〇
 .一〇、九、三三、六) ヨ 約一五・二〇を見よ
 ヲ 羅八・三五、三六
 ル 哥前二五を見よ
 (詩二九・二)
 レ (詩三七・二四) 彼二
 .四、一六、米七・八)
 ソ 羅六・八を見よ

一四 の消えゆくをイスラエルの子らに見せぬために面帕を顔におほひたり。一四 然れど彼らの心鈍くなれり。キリスト
 一五 によりて面帕の廢るべきを悟らねば、今日に至るまで舊約を讀む時その面帕なほ存れり。一五 今日に至るまでモ
 一六 セの書を讀むとき、面帕は彼らの心のうへに置かれたり。一六 然れど主に歸する時、その面帕は取り除かるべし。
 一七 主は即ち御靈なり、主の御靈のある所には自由あり。一八 我等はみな面帕なくして鏡に映ることく、主の榮光を
 見、榮光より榮光にすすみ、主たる御靈によりて主と同じ像に化するなり。

第四章

一 この故に我ら憐憫を蒙りて此の職を受けたれば、落膽せず、二 恥づべき隠れたる事をすて、悪巧
 三 に歩まず、神の言をみださず、眞理を顯して神の前に己を凡ての人の良心に薦むるなり。三 もし
 四 我らの福音おほはれ居らば、亡ぶる者に覆はれをるなり。四 この世の神は此等の不信者の心を暗まして神の像な
 五 るキリストの榮光の福音の光を照さざらしめたり。五 我らは己の事を宣べず、ただキリスト・イエスの主たる事
 六 と我らがイエスのために汝らの僕たる事を宣ぶ。六 光、暗より照り出でよと宣ひし神は、イエス・キリストの
 顔にある神の榮光を知る知識を輝かしめんために我らの心を照し給へるなり。

七 我等この寶を土の器に有てり、これ優れて大なる能力の我等より出でずして神より出づることの顯れんた
 八 めなり。八 われら四方より患難を受くれども窮せず、爲ん方つくれども希望を失はず、九 責めらるれども棄てら
 〇 れず、倒さるれども亡びず、一〇 常にイエスの死を我らの身に負ふ。これイエスの生命の我らの身にあらはれん爲

二 なり。二それ我ら生ける者の常にイエスのため死に付さるるは、イエスの生命の我らの死ぬべき肉體にあらはれ
 三 ん爲なり。三さらば死は我等のうち働き、生命は汝等のうち働くなり。三録して『われ信ずるによりて語れ
 四 り』とあるごとく、我等にも同じ信仰の靈あり、信ずるに因りて語るなり。一四これ主イエスを甦へらせ給ひし者
 五 の我等をもイエスと共に甦へらせ、汝らと共に立たしめ給ふことを我ら知ればなり。一五凡ての事は汝らの益な
 り。これ多くの人によりて御恵の増し加はり、感謝いや増りて神の榮光の顯れん爲なり。

一六 この故に我らは落膽せず、我らが外なる人は壞るれども、内なる人は日々新なり。一七それ我らが受くる
 一八 暫くの輕き患難は極めて大なる永遠の重き光榮を得しむるなり。一八我らの願みる所は見ゆる者にあらで見えぬ者
 一 ならばなり。見ゆる者は暫時にして、視えぬ者は永遠に至るなり。

第五章

一 我らは知る、我らの幕屋なる地上の家壞るれば、神の賜ふ建造物、すなはち天にある、手にて造
 二 らぬ、永遠の家あることを。二我等はその幕屋にありて歎き、天より賜ふ住所をこの上に著んこと
 三 を切に望む。三之を著るときは裸にてある事なからん。四我等この幕屋にありて重荷を負へる如くに歎く、之を
 五 脱がんとにあらで此の上に著んことを欲すればなり。これ死ぬべき者の生命に吞まれん爲なり。五我らを此の事
 六 に適ふものとなし、その證として御靈を賜ひし者は神なり。六この故に我らは常に心強し、かつ身に居るうち
 七 は主より離れ居るを知る、七見ゆる所によらず、信仰によりて歩めばなり。八斯く心強し、願ふところは寧ろ身
 八 を離れて主と偕に居らんことなり。九然れば身に居るも身を離るるも、ただ御心に適はんことを力む。一〇我等は

イ 羅六・三を見よ 八 ホ撒前四・一四 ト 羅八・二八 (哥後一) ヌ 羅七・二二を見よ 五・一〇
 三六 (加六・一七) (羅五・一五) (羅五・一五) ル (四三・一〇) 賽四〇 カ 哥後五・七 (羅八) 後四・七伯四・一九 ツ 羅八・二三 哥後五
 口 詩一二六・一〇 へ 弗五・二七 西一・一 哥後一・二二 (哥前) 二四 來二・一、レ (後後一・一四) 四
 八 (哥前一二・九) 二二 猶二四 九・一九) テ 羅八・二八 一三) ソ 可一四・五八 來九 希 哥後五・四 (哥前一) ウ 哥後一・二二 (羅八・二三)
 二 哥二・二四を見よ (路二・三六) リ 哥後四・二を見よ ワ 提後二・一〇 彼後 ヨ 彼後一・二三、一四 二一 (徒七・四八) 五・五三、五四

井(來二一・二三、一)
 四) 哥後四・一八を見よ
 哥前二・二三
 才前二・二三
 ク(約一二・二六)
 ヤ羅一四・一八 西一
 一〇 撒前四・一
 一 徒一〇・四二 羅二
 二六 來九・二七
 (羅一四・一〇、一)
 (二)
 才前二・一四、一一
 一六 腓二・二六
 弗六・八
 フ(來一〇・三二、一二
 二九 猶二・三
 可三・二二)
 一 哥後四・二
 二 哥後三・一を見よ
 三 哥後一・一四、一一
 四 約八・一五 哥後一
 五 一・二八 腓三・四
 六 羅一六・三を見よ
 七 加六・一五を見よ
 一〇を見よ
 一 約三・三 羅六・四
 二 加三・二〇 西三・三
 三 羅一四・七、九を見
 四 歌二・四、五 (察
 四三・二八、一九、
 六五・二七)
 五 哥前二・一二
 六 西一・二〇 羅五・
 七 一〇を見よ
 八 羅五・一〇 西一・
 九 約三・三 羅六・四
 一〇 西二・九
 一 羅四・八 (哥前一三
 二 約三・五 (徒三・
 三四等)
 三 羅八・三 加三・二三
 四 羅三・二五、四・二
 五)

みな必ずキリストの審判の座の前にあらはれ、善にもあれ、悪にもあれ、各人その身になしたる事に随ひて報を受くべければなり。

- 一 斯く主の畏るべきを知るによりて人々に説き勸む。われら既に神に知られたり、亦なんぢらの良心にも知られたりと思ふ。
- 二 我らは再び己を汝らに薦むるにあらず、ただ我等をもて誇とする機を汝らに與へ、心によらず外貌によりて誇る人々に答ふることを得させんと爲るなり。
- 三 我等もし心狂へるならば、神の爲なり、心慥ならば、汝らの爲なり。
- 四 キリストの愛われらに迫れり。我ら思ふに、一人すべての人に代りて死にたれば、凡ての人すでに死にたるなり。
- 五 その凡ての人に代りて死に給ひしは、生ける人の最早おのれの爲に生きず、己に代り死にて甦へり給ひし者のために生きん爲なり。
- 六 されば今より後われ肉によりて人を知るまじ、曾て肉によりてキリストを知りしが、今より後は斯の如くに知ることをせじ。
- 七 人もしキリストに在らば新に造られたる者なり、古きは既に過ぎ去り、視よ新しくなりたり。
- 八 これらの事はみな神より出づ、神はキリストによりて我らを己と和がしめ、かつ和がしむる職を我らに授け給へり。
- 九 即ち神はキリストに在りて世を己と和がしめ、その罪を之に負はせず、かつ和がしむる言を我らに委ね給へり。
- 一〇 されば我等はキリストの使者たり、恰も神の我等によりて汝らを勧め給ふがごとし。我等キリストに代りて願ふ、なんぢら神と和げ。
- 二 神は罪を知り給はざりし者を我らの代に罪となし給へり、これ我らが彼に在りて

神の義となるを得んためなり。

第六章

一 我らは神とともに働く者なれば、神の恩恵を汝らが徒らに受けざらんことを更に勸む。二 (神いひ給ふ「われ恵の時に汝に聴き、救の日に汝を助けたり」と。視よ今は恵のとき、視よ今は救の日なり)

三 我等この職の誇られぬ爲に何事にも人を躓かせず。四 反つて凡ての事において神の役者のごとく己をあら

はす、即ち患難にも、窮乏にも、苦難にも、五 打たるるにも、獄に入るにも、騷擾にも、労働にも、眠らぬに

も、断食にも、大なる忍耐を用ひ、六 また廉潔と知識と寛容と仁慈と聖霊と虚偽なき愛と、七 眞の言と神の能力

と左右に持ちたる義の武器とにより、八 また光榮と恥辱と悪名と美名とによりて表す。我らは人を惑はす者の

如くなれども眞、九 人に知られぬ者の如くなれども人に知られ、死なんとする者の如くなれども、視よ、生ける

者、懲さるる者の如くなれども殺されず、一〇 憂ふる者の如くなれども常に喜び、貧しき者の如くなれども多くの

人を富ませ、何も有たぬ者の如くなれども凡ての物を有てり。

二 コリント人よ、我らの口は汝らに向ひて開け、我らの心は廣くなれり。三 汝らの狭くせらるるは、我らに

因るにあらず、反つて己が心に因るなり。四 汝らも心を廣くして我に報をせよ。(我わが子に對する如く言ふなり)

一四 不信者と軛を同じうすな、釣合はぬなり、義と不義と何の干與かあらん、光と暗と何の交際かあらん。

一五 キリストとベリアルと何の調和かあらん、信者と不信者と何の關係かあらん。一六 神の宮と偶像と何の一致かあ

イ 羅一・一七を見よ ト 哥前三・五を見よ ル 徒一六・二三 夕 撒前一・五 哥前二 ラ 哥前四・二三 (羅三 才 哥後七・四 撒前一
哥前一・三〇を見よ チ (提後二・二四、二 五) ヲ (徒一九・二三) 四 撒二・二七、 六 腓二・二七、 一 九 一
ロ 哥前三・九を見よ 五) ヲ (徒一九・二三) 四 撒二・二七、 六 腓二・二七、 一 九 一
ハ (徒二一・二三) リ (哥後四・八一、一、 一・二三、二七、 二 撒前二・三、四) ク 哥後八・九 黙二・九
ニ (哥後五・二〇) 一・二二、二七、 二 撒前二・三、四) ク 哥後八・九 黙二・九
ホ 察四九・八 一六) 徒九、 ヲ (哥後二・二五を見よ 井 羅八・三六を見よ 一 九 一
ヘ 哥前八・九、二三、 九・二二) 又 徒一六・二三 一〇、一三、二〇) ナ (哥前四・二〇) 四・一一 マ 羅八・三三 哥前三
九・二二) 又 徒一六・二三 一〇、一三、二〇) ナ (哥前四・二〇) 四・一一 マ 羅八・三三 哥前三

徒五・一四(彼前一) 四五 耶三一・一 八・四 亦彼前一・一七を見よ リ 哥後七・二四、八・ル 哥後六・一〇を見よ
 ・二二(一) 工本一六・一六を見よ セ約一四・二三を見よ 口 賽四三・六 羅八・ へ(哥後六・一二、一 二四、九二、三撒 ヲ 哥後二・一三 羅一
 ミ 哥後六・一四を見よ 七 哥前三・一六を見よ (出二五・八) 一四を見よ 三、一二・一五) 後一・四(哥後一〇 五・二六を見よ
 シ(哥前一〇・二二) モ利二六・二二 結三 ス(黙二・二) 八 來六・九を見よ ト 哥後六・一一、一二 八 腓一・二六) ヲ 哥後四・八
 七・二七 出二九・ 一 賽五二・二一 黙一 二 彼前一・一五、一六 チ 腓一・七 又 哥後一・三を見よ カ 申三二・二五
 ヨ 哥後一・三、四
 タ 哥後二・一三を見よ
 レ 哥後七・一三
 ツ 哥後七・一一
 ソ 哥後二・三を見よ
 哥後七・一二

一八 らん、我らは活ける神の宮なり、即ち神の言ひ給ひしが如し。曰く「われ彼らの中に住み、また歩まん。我かれ
 一七 らの神となり、彼等わが民とならん」と。一七 この故に「主いひ給ふ、汝等かれらの中より出で、之を離れ、穢れ
 一六 たる者に觸るなかれと。さらば我なんぢらを受け、一八 われ汝らの父となり、汝等わが息子・娘とならんと全能の
 主いひ給ふ」とあるなり。

第七章

一 されば愛する者よ、われら斯る約束を得たれば、肉と靈との汚穢より全く己を潔め、神を畏れて
 その清潔を成就すべし。

三二 我らを受け容れよ、われら誰にも不義をなしし事なく、誰をも害ひし事なく、誰をも掠めし事なし。三
 が斯く言ふは、汝らを咎めんとにあらず、そは我が既に言へる如く、汝ら是我らの心にありて共に死に、共に生
 四 くればなり。我なんぢらを信すること大なり、また汝等をもて誇とすること大なり、我は慰安にみち、凡ての
 患難の中にも喜悅あふるるなり。

五 マケドニヤに到りしとき、我らの身はなほ聊かも平安を得ずして様々の患難に遭ひ、外には分争、内には
 七六 恐懼ありき。然れど哀なる者を慰むる神は、テトスの来るによりて我らを慰め給へり。七 唯その来るに因りて
 のみならず、彼が汝らによりて得たる慰安をもて慰め給へり。即ち汝らの我を慕ふこと、歎くこと、我に對して
 八 熱心なることを我らに告ぐるによりて我ますます喜べり。八 われ書をもて汝らを憂ひしめたれども悔いず、その
 九 書の汝らを暫く憂ひしめしを見て、前には悔いたれども今は喜ぶ。九 わが喜ぶは汝らの憂ひしが故にあらず、憂

〇 ひて悔改に至りし故なり。汝らは神に従ひて憂ひたれば、我等より聊かも損を受けざりき。一〇。それ神にしたがふ
 二 憂は、悔なきの救を得るの悔改を生じ、世の憂は死を生ず。一一。視よ、汝らが神に従ひて憂ひしことは、如何許の
 奮勵・辨明・憤激・恐懼・愛慕・熱心・罪を責むる心などを汝らの中に生じたりしかを。汝等かの事に就きては
 三 全く潔きことを表せり。二三。されば前に書を汝らに書き贈りしも、不義をなしたる人の爲にあらず、また不義を受
 けたる人の爲にあらず、我らに對する汝らの奮勵の、神の前にて汝らに顯れん爲なり。二三。この故に我らは慰安を
 得たり。慰安を得たる上にテトスの喜悅によりて更に喜べり。そは彼の心なんぢら一同によりて安んぜられたれ
 二四 ばなり。二四。われ曩に彼の前に汝らに就きて誇りたれど恥づることなし、我らが汝らに語りし事のみな誠實なりし
 一五 如く、テトスの前に誇りし事もまた誠實となれり。一五。彼は汝等みな從順にして畏れ戰き、己を迎へしことを思ひ
 一六 出して、心を汝らに寄すること増々深し。一六。われ凡ての事に汝らに就きて心強きを喜ぶ。

第八章

一 兄弟よ、我らマケドニヤの諸教會に賜ひたる神の恩恵を汝らに知らす。二 即ち患難の大なる試練
 のうちに彼らの喜悅あふれ、又その甚だしき貧窮は吝なく施す富の溢るるに至れり。三 われ證す、
 彼らは聖徒に事ふることに與る恵を切に我らに請ひ求め、みづから進みて力に應じ、否これに過ぎて施濟をなせ
 五 我らの望のほかに先づ己を主にささげ、神の御意によりて我らにも身を委ねたり。六 されば我らはテトス
 が前に此の慈惠のことを汝らの中に始めたれば、又これを成就せんことを勧めたり。七 汝等もろもろの事、すな
 はち信仰に、言に、知識に、凡ての奮勵に、また我らに對する愛に富めるごとく、此の慈惠にも富むべし。八

イ(徒一・一八) ホ(哥後七・八を見よ) リ(哥前二・一六・二二) カ(腓二・一二) 哥(前二) ソ(羅一五・二五) 哥(後一・一六・二二) ラ(哥前一・一を見よ) 井(哥後八・一〇)
 口(哥後七・七) ヘ(哥前五・一・二) ヌ(哥後七・四を見よ) ヨ(三) 九(一・一二) 徒(九) ナ(哥後八・一〇・二〇) ム(哥後八・一六・二三) ノ(哥後八・一七・二二)
 ハ(哥後二・六) ト(哥後七・六) ル(哥後二・二・六) ヨ(哥後二・三) 一(三を見よ) 九(一・一二・二三) 及(び) 哥(後二・一三) 二(一八)
 ニ(徒三・五 雅三・一) チ(哥後二・一三を見よ) テ(哥後七・一三) タ(羅一五・二六を見よ) ツ(哥後八・六・七・一九) 羅(一五・二六) 徒(二) 見(よ) オ(哥前一・五・一二・七)
 七) 哥(後七・一四) 門(七) ワ(哥後二・九を見よ) レ(羅二・四を見よ) ネ(哥後八・一一) 哥(前四・一七を見よ) ウ(哥後八・三を見よ) 八(羅一五・一四)

ク 哥後九・八
 ヤ 哥後八・三を見よ
 ヲ 哥後九・八
 ケ 哥前七・六
 フ 哥後一三・一三
 コ 哥後六・一〇 隣二
 サ 哥後九・二
 タ 二〇・二八を見よ
 エ 哥後八・四を見よ
 ナ 哥前七・二五、四〇
 ア 哥前一六・二、三
 キ 哥後八・一一、一九、ノ 哥後九・一二 徒四
 ニ 九・二
 ユ 可一三・四三、四四
 ル 二一・三 哥後九
 シ 一七・一七
 ス 哥後八・六を見よ
 ヒ 哥後二・一四を見よ
 三 三四
 ミ 出二六・一八
 シ 一七・一七
 ス 哥後二・一二を見よ
 イ 哥前七・一七 及び
 徒一四・二三
 セ 哥後八・六を見よ
 セ 哥後一三・一八
 (哥前一六・三)
 ハ 哥後八・四を見よ
 ニ 哥前一六・三、四
 徒一四・二三
 哥前四・一七を見よ、ホ 羅一四・一八を見よ
 ロ 哥後八・一二を見よ、ヘ 羅一二・一七 標前
 ハ 哥後八・四を見よ
 ニ 哥前一六・三、四
 徒一四・二三
 三・七

九 われ斯く言ふは汝らに命ずるにあらず、ただ他の人の奮勵によりて、汝らの愛の眞實を試みん爲たり。九汝らは
 我らの主イエス・キリストの恩恵を知る。即ち富める者にて在したれど、汝等のために貧しき者となり給へり。
 一〇 これ汝らが彼の貧窮によりて富める者とならん爲なり。一〇施濟のことに就きて我ただ意見を述べ、これは汝らの
 益なり。汝らは此の事をただに一年前より人に先だちて行ひしのみならず、又これを願ひ始めし事なれば、二今
 二 これを成遂げよ、汝らが心より願ひしごとく、所有に應じて成遂げよ。三人もし志望あらば其の有たぬ所に由る
 三 にあらず、其の有つ所に由りて嘉納せらるるなり。三これ他の人を安くして汝らを苦しめんとにあらず、均しく
 四 せんと爲るなり。四即ち今なんぢらの餘るところは彼らの足らざるを補ひ、後また彼らの餘る所は汝らの足らざ
 五 るを補ひて均しくなるに至らんためなり。五録して『多く集めし者にも餘る所なく、少く集めし者にも足らざる
 所なかりき』とあるが如し。

一六 汝らに對する同じ熱心をテトスの心にも賜へる神に感謝す。一七 彼はただに勸を容れしのみならず、甚だ
 一八 熱心にして、自ら進んで汝らに往くなり。一八我等また彼とともに一人の兄弟を遣す。この人は福音をもて諸教會
 一九 のうちに譽を得たる上に、一九主の榮光と我らの志望とを顯さんがために掌どれる此の慈恵に就きて諸教會より
 二〇 我らの道伴として選ばれたる者なり。二〇彼を遣すは此の大なる贖金を掌どるに人に咎めらるる事を避けんためな
 二一 り。二一そは主の前のみならず、人の前にも善からんことを慮ばかりてなり。二二また一人の兄弟を彼らと共に
 二二 かはす、我らは多くの事につきて屢次かれの熱心なるを認めたり。而して今は彼が汝らを深く信するに因りて、

三 その熱心の更に加はるを認む。三三 テトスのことを言へば我が友なり、汝らに對して我が同勞者なり。この兄弟たちの事をいへば彼らは諸教會の使なり、キリストの榮光なり。三四 されば汝らの愛と我が汝らに就きて誇れる事との證を諸教會の前にて彼らに顯せ。

第九章

一 聖徒に施すことに就きては汝らに書きおくるに及ばず、二 我なんぢらの志望あるを知ればなり。その志望につき汝らの事をマケドニヤ人に誇りて、アカヤは既に一年前に準備をなせりと云へり。

三 斯て汝らの熱心は多くの人を勵したり。三 然れど、われ兄弟たちを遣すは、我が言ひごとく汝らに準備をなさしめ、之につきて我らの誇りし事の空しくならざらん爲なり。四 もしマケドニヤ人、われと共に來りて汝らの準備なきを見れば、汝らは言ふに及ばず、我らも確信せしによりて恐らくは恥を受けん。五 この故に兄弟たちを勸めて、先づ汝らに往かしめ、曩に汝らが約束したる慈惠を吝むが如くせずして、惠む心より爲んために預じめ調へしむるは、必要のことと思へり。

七六 六 それ少く播く者は少く刈り、多く播く者は多く刈るべし。七 おのおの吝むことなく、強ひてすることなく、その心に定めし如くせよ。神は喜びて與ふる人を愛し給へばなり。八 神は汝等をして常に凡ての物に足らざることなく、凡ての善き業に溢れしめんために、凡ての恩惠を溢るるばかり與ふることを得給ふなり。九 録して「彼は散らして貧しき者に與へたり。その正義は永遠に存らん」とある如し。一〇 播く人に種と食するパンとを與ふる者は、汝らにも種をあたへ、且これを殖し、また汝らの義の果を増し給ふべし。二 汝らは一切に富みて

イ 哥後二・一三を見よ
ホ 哥前二・一七
カ 哥後九・五
ツ 創三三・二一 士二一
ナ 申四・一七
二九・一七 哥後九
廿三・九 出二五
口 門一七
ヘ 哥後七・四を見よ
ヨ 哥前一六・二
二五等 哥後九
ラ 申二一・二四、二二
二二及び羅二二・
ハ 哥後八・一八、二二
ト 哥後八・四を見よ
ル 哥後七・四を見よ
タ 哥後九・二
五、二二・九 加六・
八を見よ 哥後八・
ニ 腓二・二五 約一三
チ 撒前四・九
レ 哥後九・二
七一九
一 一〇
代上 卅 門一〇
ク 賽五五・一〇

ヤ(何一〇・二二) ケ(哥後九・七、二二) サ(哥後二・二二)を見よ シ(哥後二・一四)を見よ セ(羅一・二)を見よ ハ(哥後六・七)を見よ ト(哥後九・一三) (哥前九・一) 加一
 マ(哥前二・五) フ(哥後一・二) キ(提前六・二二、二三) エ(哥後一・一〇) ス(哥後一・一七)を見よ (哥前九・七) 提前 チ(哥後二・九)を見よ (一二)
 コ(哥後八・四)を見よ 來(三・一、四、一四) (哥前二・三、四) 羅(八・五) 哥後一〇 一(一八) リ(約七・二四、五、一) ナ(哥後一三・一〇) (一三)
 エ(哥後八・四) 一〇(二三) と加(五・二) 弗(三・一) 二(耶一・一〇) (哥後一) (二) ワ(哥後七・四) (一四)
 テ(哥後一・二) ユ(哥後九・七、一一) ヨ(太九・八)を見よ モ(太二・二九) (哥前) イ(哥前四・二二) 哥後 〇(八、一三、一〇) ヌ(哥前二・一二) (哥前) (一四、三七) (一五)
 ア(哥後八・四) 羅一 ム(太九・八)を見よ ミ(羅五・一五、一六) 四(二二) 腓(四・五) ロ(哥後一〇・二)を見よ へ(腓四・七) ル(哥後二・二三)

二 吝みなく施すことを得、かくて我らの事により人々、神に感謝するに至るなり。三 此の施濟の務は、ただに聖徒
 三 の窮乏を補ふのみならず、充ち溢れて神に對する感謝を多からしむ。四 即ち彼らは此の務を證據として、汝らが
 二五 歸し、四 かつ神の汝らに賜ひし優れたる恩恵により、汝らを慕ひて汝等のために祈らん。五 言ひ盡しがたき神の
 賜物につきて感謝す。

第一〇章

一 汝らに對し面前にては謙だり、離れるては勇ましき我パウロ、自らキリストの柔和と寛容とをも
 二 て汝らに勧む。ニ 我らを肉に従ひて歩むごとく思ふ者あれば、斯る者に對しては雄々しく爲んと思
 三 へど、願ふ所は我が汝らに逢ふとき斯く勇ましく爲ざらん事なり。三 我らは肉にありて歩めども、肉に従ひて戰
 四 はず。四 それ我らの戰爭の武器は肉に屬するにあらず、神の前には城砦を破るほどの能力あり、我等はもろもろ
 六五 の論説を破り、五 神の示教に逆ひて建てたる凡ての櫓を毀ち、凡ての念を虜にしてキリストに服はしむ。六 且な
 七 んぢらの從順の全くならん時、すべての不從順を罰せんと覺悟せり。七 汝らは外貌のみを見る、若し人みづか
 八 らキリストに屬する者と信ぜば、己がキリストに屬する如く、我らも亦キリストに屬する者なることを更に考ふ
 九 べし。八 假令われ汝らを破る爲ならずして建つる爲に、主が我らに賜ひたる權威につきて誇ること稍過ぐとも恥
 九 とはならじ。九 われ書をもて汝らを嚇すと思はざれ。一〇 彼らは言ふ『その書は重く、かつ強し、その逢ふときの

二 容貌は弱く、言は鄙し』と。二 斯のごとき人は思ふべし。我らが離れをる時おくる書の言のごとく、逢ふときの
 三 行爲も亦然るを。三 我らは己を譽むる人と敢て並び、また較ぶる事をせず、彼らは己によりて己を度り、己をも
 四 て己に較ぶれば智なき者なり。三 我らは範圍を踰えて誇らず。神の我らに分ち賜ひたる範圍にしたがひて誇ら
 五 ん。その範圍は汝らに及べり。四 汝らに及ばぬ者のごとく範圍を踰えて身を延すに非ず、キリストの福音を傳へ
 六 て汝等にまで到れるなり。一五 我らは己が範圍を踰えて他の人の勞を誇らず、唯なんぢらの信仰の彌増すにより我
 七 らの範圍に循ひて汝等のうちに更に大なることを望む。一六 これ他の人の範圍に既に備りたるものを誇らず、
 八 汝らを踰えて外の處に福音を宣傳へん爲なり。一七 誇る者は主によりて誇るべし。一八 そは是とせらるるは己を譽む
 九 る者にあらず、主の譽め給ふ者なればなり。

第一章

一 願くは汝等わが少しの愚を忍ばんことを。請ふ我を忍べ。二 われ神の熱心をもて汝らを慕ふ、わ
 二 れ汝らを潔き處女として一人の夫なるキリストに獻げんとて、之に許嫁したればなり。三 されど我
 三 が恐るるは蛇の悪巧によりてエバの惑されし如く、汝らの心害はれてキリストに對する眞心と貞操とを失はん
 四 事なり。四 もし人きたりて我らの未だ宣べざる他のイエスを宣ぶる時、また汝らが未だ受けざる他の靈を受け、
 五 未だ受け容れざる他の福音を受くるときは汝ら能く之を忍ばん。五 我は何事にも、かの大使徒たちに劣らずと思
 六 ふ。六 われ言に拙けれども知識には然らず、凡ての事にて全く之を汝らに顯せり。七 われ汝らを高くせんために

イ 哥前二・三を見よ 二 哥後一〇・一四—一 三 哥後一〇・一三
 (哥後二・七加四) 六 六 羅一五・二〇を見よ 力 羅一・一を見よ
 (一三、一四) 六 羅一二・三を見よ 哥後一〇・一六 (哥後二・二二、一
 口 (哥前二・一七 哥後 六 又 哥後一〇・一三 一
 一一・六) 六 六 羅一〇・一三 三 哥前二・三二を見よ
 八 哥後一〇・一八 哥 へ 哥後二・二二を見よ 三 羅一五・二〇を見よ
 後三・一を見よ 三 哥前三・六を見よ 哥後一〇・一五 夕 哥後一〇・一二を見
 二 徒一九・二二 五 羅二・二九 哥前四 何二・一九、二〇 弗
 五・二六、二七 五 加一・六 (提前一、
 三) 三 井 (可七・九)
 二 六 六 哥後一〇・一〇を見よ 二 六 六 哥後一〇・一〇を見よ
 二 六 六 哥後一〇・一〇を見よ 二 六 六 哥後一〇・一〇を見よ

ケ 哥前九・一八を見よ 四・一六
 (徒一八・三) サ 羅一五・二六を見よ (二・二・三) (羅九) ス 太四・一〇を見よ
 フ 羅一・二を見よ キ 徒一八・五 (哥前九・一二) (弗六・一二) 西一・一
 コ 哥後一・二・一三 ユ 羅九・二を見よ 三〇 加一・七、二 一三三 二・六を見よ
 エ 腓四・二五、一八(哥 ヲ 哥前九・二五 四 腓一・一五多 八) へ 哥後五・一六を見よ
 前四・二二、九・六) ミ 徒一八・二二を見よ 一・一〇、一一 後後 ト 哥前四・一〇を見よ
 ナ 腓四・二二 シ 哥後一・二・一五 二・二) ハ 哥後二・六、三・八) 手 加二・四、五・一
 ア 哥後一・二・三、一 エ 哥後一・三・一、一セ(腓三・二) 二(哥前七・一二、二 三・九)
 ヲ 哥後一・二・四〇
 ヲ 哥後二・二・一六
 ル(哥後一〇・五)
 テ(哥前四・一一 哥後 六・五)
 ヲ(哥後六・八)
 カ(哥後一〇・一〇)
 ヲ(哥後一〇・二)
 ヲ 哥後二・一・一七
 レ 徒六・二を見よ
 ソ 腓三・五
 ツ 羅九・四
 ネ 腓三・五
 ナ 加三・二六
 ラ 羅一・一
 ム 哥前三・五を見よ
 提前三・六
 (哥後一〇・七)

八 自己を卑うし、價なくして神の福音を傳へたるは罪なりや。ハ 我は他の教會より奪ひ取り、その俸給をもて汝ら

九 に事へたり。九 又なんぢらの中に在りて乏しかりしとき、誰をも煩はさず、マケドニヤより來りし兄弟たち我が

一〇 窮乏を補へり。斯く凡ての事に汝らを煩はすまじと慎みたるが、此の後もなほ慎まん。一〇 我に在るキリストの

誠實によりて言ふ、我この誇をアカヤの地方にて阻まるる事あらじ。二 これ何故ぞ、汝らを愛せぬに因るか、

神は知りたまふ。二 我わが行ふ所をなほ行はん、これ機會をうかがふ者の機會を斷ち、彼等をしてその誇る所に

つき我らの如くならしめん爲なり。三 斯の如きは偽使徒また詭計の勞働人にして、己をキリストの使徒に扮へる

者どもなり。四 これ珍しき事にあらず、サタンも己を光の御使に扮へば、五 その役者らが義の役者のごとく扮ふ

は大事にはあらず、彼らの終局はその業に適ふべし。

一六 われ復いはん、誰も我を愚と思ふな。もし然おもふとも少しく誇る機を我にも得させん爲に愚なる者とし

て受容れよ。一七 今いふ所は主によりて言ふにあらず、愚なる者として大膽に誇りて言ふなり。一八 多くの人、肉に

よりて誇れば我も誇るべし。一九 汝らは智き者なれば喜びて愚なる者を忍ぶなり。二〇 人もし汝らを奴隸とすとも、

食ひ盡すとも、掠めとるとも、驕るとも、顔を打つとも、汝らは之を忍ぶ。二一 われ恥ぢて言ふ、我らは弱き者の

如くなりき。然れど人の雄々しき所は我もまた雄々し、われ愚にも斯く言ふなり。二三 彼らへブル人なるか、我も

然り、彼らイスラエル人なるか、我も然り、彼らアブラハムの裔なるか、我も然り。二三 彼らキリストの役者なる

か、われ狂へる如く言ふ、我はなほ勝れり。わが勞は更におほく、獄に入れられしこと更に多く、鞭うたれしこと更に夥だしく、死に瀕みたりしこと屢次なりき。二四 ユダヤ人より四十に一つ足らぬ鞭を受けしこと五度、二五 答にて打たれしこと三たび、石にて打たれしこと一たび、破船に遭ひしこと三度に於て一晝夜、海にありき。二六 しばしば旅行して河の難、盜賊の難、同族の難、異邦人の難、市中の難、荒野の難、海上の難、偽兄弟の難にあひ、二七 勞し、苦しみ、しばしば眠らず、飢ゑ渴き、しばしば斷食し、凍え、裸なりき。二八 ここに擧げざる事もあるに、なほ日々われに迫る諸教會の心勞あり。二九 誰か弱りて我弱らざらんや、誰か躓きて我燃えざらんや。三〇 もし誇るべくば、我が弱き所につきて誇らん。三一 永遠に讃むべき者、すなはち主イエスの神また父は、我が偽らざるを知り給ふ。三二 ダマスコにてアレタ王の下にある總督われを捕へんとてダマスコ人の町を守りたれば、三三 我は籠にて窓より石垣傳ひに縋下されて其の手を脱れたり。

第一二章

一 わが誇るは益なしと雖も止むを得ざるなり、茲に主の顯示と默示とに及ばん。二 我はキリストにある一人の人を知る。この人、十四年前に第三の天にまで取り去られたり（肉體にてか、われ知らず、肉體を離れてか、われ知らず、神しり給ふ）三 われ斯のごとき人を知る、（肉體にてか、肉體の外にてか、われ知らず、神しり給ふ）四 かれパラダイスに取り去られて言ひ得ざる言、人の語るまじき言を聞けり。五 われ斯のごとき人のために誇らん、然れど我が爲には弱き事のほか誇るまじ。六 もし自ら誇るとも我が言ふところ誠實

イ 哥前二・一五・二〇を見
ト 徒一四・一九
チ 徒九・二三、一三、
四五、五〇、一四、
一八・一二、二〇、
一八・一二、二〇、
三、一九、二二、二二
七、二三、一〇、一
二、二五、三 撒前
ハ 徒一六・二三 哥前
四・二一 哥後六・五
ニ 羅八・三六を見よ
ホ 申二五・三
ヘ 徒一六・三二
ニ 二・一五
リ 徒一四・五、一九、
一九・二三以下 二
カ 哥後六・五
ヨ 哥前四・一一
タ 哥前七・一七を見よ
レ 哥前九・二二を見よ
ウ 徒九・二四
ソ 哥前二・三を見よ
井 哥後一・三〇、一
ニ 二・五、九（哥後一
二・一六、一八）
ヤ 哥後二・二、四 撒前
四・一七 黙二・二五
（徒八・三九 結八・
三）
マ 哥後一・二、一を見
テ 哥前二・三を見よ
フ 路二三・四三を見よ
コ 哥後一・二、二を見よ
エ 哥後一・二、一を見よ
チ 哥前二・三を見よ
ア 哥後七・一四
來四・一四
撒前
結八・
三
マ 哥後一・二、一を見
テ 哥前二・三を見よ
フ 路二三・四三を見よ
コ 哥後一・二、二を見よ
エ 哥後一・二、一を見よ
チ 哥前二・三を見よ
ア 哥後七・一四

一六 哥後二一・一六、一
 一七 哥後二一・一五
 一八 哥後二一・一五
 一九 哥後二一・一五
 二〇 哥後二一・一五
 二一 哥後二一・一五
 二二 哥後二一・一五
 二三 哥後二一・一五
 二四 哥後二一・一五
 二五 哥後二一・一五
 二六 哥後二一・一五
 二七 哥後二一・一五
 二八 哥後二一・一五
 二九 哥後二一・一五
 三〇 哥後二一・一五
 三一 哥後二一・一五
 三二 哥後二一・一五
 三三 哥後二一・一五
 三四 哥後二一・一五
 三五 哥後二一・一五
 三六 哥後二一・一五
 三七 哥後二一・一五
 三八 哥後二一・一五
 三九 哥後二一・一五
 四〇 哥後二一・一五
 四一 哥後二一・一五
 四二 哥後二一・一五
 四三 哥後二一・一五
 四四 哥後二一・一五
 四五 哥後二一・一五
 四六 哥後二一・一五
 四七 哥後二一・一五
 四八 哥後二一・一五
 四九 哥後二一・一五
 五〇 哥後二一・一五
 五一 哥後二一・一五
 五二 哥後二一・一五
 五三 哥後二一・一五
 五四 哥後二一・一五
 五五 哥後二一・一五
 五六 哥後二一・一五
 五七 哥後二一・一五
 五八 哥後二一・一五
 五九 哥後二一・一五
 六〇 哥後二一・一五
 六一 哥後二一・一五
 六二 哥後二一・一五
 六三 哥後二一・一五
 六四 哥後二一・一五
 六五 哥後二一・一五
 六六 哥後二一・一五
 六七 哥後二一・一五
 六八 哥後二一・一五
 六九 哥後二一・一五
 七〇 哥後二一・一五
 七一 哥後二一・一五
 七二 哥後二一・一五
 七三 哥後二一・一五
 七四 哥後二一・一五
 七五 哥後二一・一五
 七六 哥後二一・一五
 七七 哥後二一・一五
 七八 哥後二一・一五
 七九 哥後二一・一五
 八〇 哥後二一・一五
 八一 哥後二一・一五
 八二 哥後二一・一五
 八三 哥後二一・一五
 八四 哥後二一・一五
 八五 哥後二一・一五
 八六 哥後二一・一五
 八七 哥後二一・一五
 八八 哥後二一・一五
 八九 哥後二一・一五
 九〇 哥後二一・一五
 九一 哥後二一・一五
 九二 哥後二一・一五
 九三 哥後二一・一五
 九四 哥後二一・一五
 九五 哥後二一・一五
 九六 哥後二一・一五
 九七 哥後二一・一五
 九八 哥後二一・一五
 九九 哥後二一・一五
 一〇〇 哥後二一・一五

一 ならば、愚なる者とならじ。然れど之を罷めん。恐らくは人の我を見、われに聞くとおろに過ぎて我を思ふこと
 二 あらん、七 我は我が蒙りたる默示の鴻大なるによりて高ぶることの莫らんために肉體に一つの刺を與へらる、即
 三 ち高ぶること莫らんために我を撃つサタンの使なり。ハ われ之がために三度まで之を去らしめ給はんことを主に
 四 求めたるに、九 言ひたまふ『わが恩惠なんぢに足れり、わが能力は弱きうちに全うせらるればなり』然ればキリ
 五 ストの能力の我を庇はんために、寧ろ大に喜びて我が微弱を誇らん。〇この故に我はキリストの爲に微弱・恥辱・
 六 艱難・迫害・苦難に遭ふことを喜ぶ、そは我よわき時に強ければなり。
 七 二 われ汝らに強ひられて愚になれり、我は汝らに譽めらるべかりしなり。我は數ふるに足らぬ者なれども、
 八 何事にもかの大使徒たちに劣らざりしなり。二 我は徴と不思議と能力ある業とを行ひ、大なる忍耐を用ひて汝等
 九 のうちに使徒の徴をなせり。三 なんぢら他の教會に何の劣る所がある、唯わが汝らを煩はさざりし事のみならず
 一〇 や、此の不義は請ふ我に恕せ。
 一一 二 視よ、茲に三度なんぢらに到らんとして準備したれど、尙なんぢらを煩はすまじ。我は汝らの所有を求め
 一二 す、ただ汝らを求む。それ子は親のために貯ふべきにあらず、親は子のために貯ふべきなり。三 我は大に喜びて
 一三 汝らの靈魂のために物を費し、また身をも費さん。我なんぢらをよく愛するによりて汝ら我を少く愛するか。
 一四 或人いはん、我なんぢらを煩はさざりしも、狡猾にして詭計をもて取りしなりと。七 然れど我なんぢらに遣し

ハ し者のうちの誰によりて汝らを掠めしや。ハ我テトスを勧めて汝らに遣し、これと共にかの兄弟を遣せり、テトスは汝らを掠めしや。我らは同じ御霊によりて歩み、同じ足跡を踏みしにあらずや。

九 汝らは夙くより我等なんぢらに對して辯明すと思ひしならん。されど我らはキリストに在りて神の前にて語る。愛する者よ、これ皆なんぢらの徳を建てん爲なり。二〇 わが到りて汝らを見ん時、わが望の如くならず、汝

二〇 語ら我を見んとき、亦なんぢらの望の如くならずらんことを恐れ、かつ分争・嫉妬・憤恚・徒黨・誹謗・讒言・驕傲・騷亂などの有らんことを恐る。二一 また重ねて到らん時、わが神われを汝等のまへにて辱しめ、且おほくの人の、前に罪を犯して行ひし不潔と姦淫と好色とを悔改めざるを悲しましめ給ふことあらん乎と恐る。

第一三章

一 今われ三度なんぢらに到らんとす、二三の證人の口によりて凡てのこと慥めらるべし。ニ われ既に告げたれど、今離れをりて、二度なんぢらに逢ひし時のごとく、前に罪を犯したる者とその他の

三 凡ての人々とに預じめ告ぐ、われ復いたらば決して宥さじ。三 汝らはキリストの我にありて語りたまふ證據を求むればなり。キリストは汝らに對ひて弱からず、汝等のうちに強し。四 微弱によりて十字架に釘けられ給ひたれ

五 ど、神の能力によりて生き給へばなり。我等もキリストに在りて弱き者なれど、汝らに向ふ神の能力によりて彼と共に生きん。五 なんぢら信仰に居るや否や、自ら試み、自ら驗しみよ。汝等みづから知らざらんや、若し

六 棄てらるる者ならずば、イエス・キリストの汝らの中に在す事を、六 我は我らの棄てらるる者ならぬを汝らの知

- イ (哥後九・五) (一) ル 哥前二・二
- ロ 哥後二・二三を見よ (二) 来六・九を見よ (三) ム 哥前四・六、一八、
- ハ 哥後八・六を見よ (四) 羅一四・一九を見よ (五) ナ 申一九・一五 太一
- ニ 哥後八・一八 (五) 哥後二〇・八 (撒前) (六) 羅二・八を見よ (七) 哥前二・二、二二
- ホ (哥前四・二二) (八) 五・二二 (九) 哥前二・一九 (十) 哥後二・三、二二
- ヘ 羅四・二二 (十一) 哥後二・二、一四 (十二) カ 羅一・三〇 雅四・
- ト 哥後二・七 (羅九・ (十三) 彼前二・一 九、一八 四三・五 (十四) 哥前四・二二) (十五) オ (哥後九・八、一〇、
- ウ (哥後二・二三、一 (十六) 四) (十七) ク (羅二・八、彼前三・
- ケ 羅六・八 (十八) フ (約六・六) (十九) コ 哥前一・二八を見
- ク 羅六・八 (二十) 上 (二十一) エ (哥前九・二七)

テ 哥後一三・四 (哥後 一〇八・一) 哥前 一三・九を見よ
 一三・一〇 (一三・一〇) 五・四 (一三・一〇) 一六を見よ
 ア 哥後一三・一一 弗 一三・一三 一三・一三
 四・二二 (哥前一・ 一) 撒前四・一 撒後三
 一〇 撒前三・一〇 (一) 一 等 (弗六・二二) 一三・一〇
 一三・一〇 (一三・一〇) 一三・一〇 (一三・一〇) 一三・一〇
 一三・一〇 (一三・一〇) 一三・一〇 (一三・一〇) 一三・一〇

七 らんことを望む。我らは汝らの少しにても悪を行はざらんことを神に祈る。これ我らの是とせらるるを顯さん
 八 爲にあらず、縦われらは棄てらるる者の如くなるとも、汝らの善を行はん爲なり。我らは眞理に逆ひて能力な
 九 く、眞理のためには能力あり。われら弱くして汝らの強きことを喜ぶ、また之に就きて祈るは汝らの全くなら
 一〇 ん事なり。われ離れ居りて此等のことを書き贈るは、汝らに逢ふとき、主の破る爲ならずして建つる爲に我に
 賜ひたる權威に隨ひて厳しくせざらん爲なり。

一 終に言はん、兄弟よ、汝ら喜べ、全くなれ、慰安を受けよ、心を一つにせよ、睦み親しめ、然らば愛と平和
 二 との神なんぢらと偕に在さん。潔き接吻をもて相互に安否を問へ、凡ての聖徒なんぢらに安否を問ふ。
 三 願くは主イエス・キリストの恩恵・神の愛・聖靈の交感、なんぢら凡ての者と偕にあらんことを。

コリント人への後の書 をはり

一 或は「もさより汝らは我を忍ぶなり」を譯す。